

## 日本人学生の英語リスニング能力に関する一考察 語彙能力との関係について

著者	喜田 慶文
著者別名	Yoshifumi KITA
雑誌名	観光学研究
号	12
ページ	49-58
発行年	2013-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00004414/">http://id.nii.ac.jp/1060/00004414/</a>

# 日本人学生の英語リスニング能力に関する一考察 —語彙能力との関係について—

喜田 慶文\*

## 1. はじめに

大学学部での英語指導において、グローバル人材育成が喫緊の課題<sup>1)</sup>の一つとなっているがそれには語学力、特に英語の4技能のバランスの良い運用能力養成が不可欠であろう。これまでに学生の英語運用能力養成を目的に英語学習動機(喜田:2008)、リスニングとリーディング能力の相関性(喜田:2007)などを調査したが今回は語彙とリスニング能力の関係性について調査し、考察する。

本稿では東洋大学国際観光学科2012年度入学生の英語スクリーニングテストとして利用した入学直後のTOEICテスト<sup>2)</sup>結果を利用し、全体のテスト結果を分析するとともに、高得点(505～780点)者の中から調査に協力可能な26名にさらにトイフル<sup>3)</sup>の語彙テスト及び英語学習環境の質問紙調査を実施し、語彙学習とリスニング能力との関連性、問題点の考察を行い、学部カリキュラム作成の参考にしようとするものである。

## 2. 方法

### (1) 調査・分析方法

1. はじめに、東洋大学国際観光学科2012年度入学生237名の英語スクリーニングテストとして行った入学直後のTOEICテスト結果をIBM SPSS Statistics<sup>4)</sup>を使用して分析した。

2. 調査協力者26名に対して語彙テスト、質問紙調査を行いその結果を分析し、この中から英語圏滞在3年以上の帰国子女5名および、語彙の学習、関心に対する質問に無回答であった3名を除く18名を対象に語彙得点とリスニング得点、リーディング得点との相関性について分析した。

### (2) 調査対象

TOEICテスト結果から高得点者(505～780点)26名を対象として語彙テスト、質問紙調査を行い、その両方の結果が得られた者の中からさらに帰国子女5名を除いた、18名を対象とし、その調査結果を分析した。

---

\*東洋大学国際地域学部: Faculty of Regional Development Studies, Toyo University

### (3) 語彙テスト・質問紙調査

調査参加者（被験者）26名を対象にトイフルで公開されている語彙テストのパート<sup>5)</sup> 30題を使用しテストを行い、また英語学習歴、学習方法、英語圏滞在の有無またその期間などについての質問紙調査を行った。この質問紙調査から、英語圏滞在3年以上の帰国子女5名および、語彙の学習、関心に対する質問に無回答であった3名を除く18名を対象として、「語彙学習に力を入れて取り組んだ」に回答した8名をグループ1とし、「少しは力を入れた」、「あまり力を入れなかった」に回答した10名をグループ2として、各グループの語彙得点（30問）と TOEIC リスニング、リーディング得点との相関性を分析した。

## 3. 分析結果

### (1) TOEIC テスト

#### 1. 総合点（Total Score）の分析結果

273名の① 総合点、平均値、標準偏差、②リスニングのパートの平均値、標準偏差、③リーディングのパートの平均値、標準偏差（表1）：

表1 TOEIC 総合点（Total Score）

	度数（被験者数）	平均	標準偏差	最少	最大	標本数
トータル	237	385.7	109.1	106	780	237
リスニング	237	222.4	63.3	85	435	237
リーディング	237	163.3	57.3	50	360	237

Pearson の相関係数 〈リスニング－リーディング〉：\*0.639 [P < 0.01]

注：\*\* は相関係数が1%水準（両側）で有意であることを示す。

：\* は相関係数が5%水準（両側）で有意であることを示す。

t 検定 〈リスニング－リーディング〉：自由度 236 t 値 17.690 [P < 0.01]

このグループではリスニングの成績とリーディング成績の相関係数は1%水準 0.639 [P < 0.01] で、中程度の相関性が見られ、またリスニングリーディングの母平均に有意な差（t 値 17.690 [P < 0.01]）が見られる。

## 2. 総合得点グループ別の分析結果

総合点の高得点順4グループG 1（最も高い）～G4（最も低い）のグループ別

- ①リスニングの平均値、標準偏差、②リーディングの平均値、標準偏差、  
③リスニングとリーディングの得点の相関性（表2）：

	表2 TOEIC 総合得点グループ別			
	平均	標準偏差	最少	最大
G 1 : N = 29				
トータル	588.9	65.1	505	780
リスニング	320.0	41.6	270	435
リーディング	259.0	40.6	180	360
G 2 : N = 68				
トータル	449.2	28.3	405	500
リスニング	256.0	30.5	170	335
リーディング	193.2	31.7	130	265
G 3 : N = 90				
トータル	356.7	28.6	305	400
リスニング	211.6	30.8	130	265
リーディング	145.1	28.5	85	210
G 4 : N = 50				
トータル	239.8	37.5	160	300
リスニング	139.9	30.6	85	210
リーディング	99.9	24.9	50	165

Pearson の相関係数 〈リスニング - リーディング〉

G 1 : 0.254 (P < 0.183)      G 2 : \*\* -0.587 (P < 0.01)

G 3 : \*\* -0.539 (P < 0.01)      G 4 : -0.098 (P < 0.498)

中間グループG 2、G 3のリスニングの成績とリーディング成績の相関係数は1 %水準で有意である。

### 3. リスニング能力別分析

リスニングの高得点順に4グループGL 1（最も高い）～GL 4（最も低い）のグループ別、①リスニングのパートの平均値、標準偏差、②リーディングのパートの平均値、標準偏差、③リスニングとリーディングの得点の相関性（表3）。

表3 リスニング能力別

	平均	標準偏差	最少	最大
GL 1 : N = 21				
トータル	580.2	83.8	445	780
リスニング	339.5	36.2	305	435
リーディング	240.7	65.6	130	360
GL 2 : N = 87				
トータル	444.7	55.7	325	580
リスニング	260.2	20.2	235	295
リーディング	184.4	45.8	85	290
GL 3 : N = 66				
トータル	361.9	43.9	270	480
リスニング	212.0	14.9	185	230
リーディング	149.9	41.8	80	250
GL 4 : N = 63				
トータル	264.5	58.7	160	425
リスニング	142.2	26.3	85	180
リーディング	122.3	42.4	50	250

Pearson の相関係数 〈リスニング - リーディング〉

GL 1 : 0.331 (P < 0.14)      \*\* GL 2 : 0.324 (P < 0.01)

GL 3 : -0.033 (P < 0.79)      \*\* GL 4 : 0.482 (P < 0.01)

リスニングの高得点順にグループ分けしたGL 1（最もリスニングが高いグループ）と3番目であるGL 3では有意な相関性がみられなかったが中位グループGL 2と最下位グループGL 4ではその値は低いが相関性が見られた。

#### 4. リーディング能力別分析

リーディングの高得点順に4グループ GR 1（最も高い）～GR 4（最も低い）グループ別

- ①リスニングのパートの平均値、標準偏差、③リーディングのパートの平均値、標準偏差、  
③リスニングとリーディングの得点の相関性（表4）。

表4 リーディング能力別

	平均	標準偏差	最少	最大
GD 1 : N = 45				
トータル	534.0	76.5	425	780
リスニング	281.3	51.4	175	420
リーディン	252.7	32.8	220	360
GD 2 : N = 82				
トータル	411.0	57.5	285	635
リスニング	232.2	52.8	120	435
リーディング	178.5	17.4	155	210
GD 3 : N = 75				
トータル	338.0	56.8	215	444
リスニング	208.1	50.6	105	325
リーディング	130.0	15.5	105	150
GD 4 : N = 35				
トータル	238.7	48.3	160	335
リスニング	154.6	45.6	85	250
リーディン	84.1	10.6	50	100

Pearson の相関係数 〈リスニング - リーディング〉

GR 1 : 0.631 [P < 0.01]      GR 2 : 0.115 [P < 0.31]

GR 3 : \*0.267 [P < 0.02]      GR 4 : 0.142 [P < 0.42]

リーディング高得点順グループではGR 3にのみ低い相関性（\*0.267 [P < 0.02]）が見られる。

## (2) 語彙テスト結果・分析

### 1. 語彙テスト結果

26名の協力者（被験者）の中から、英語学習歴、学習方法、英語圏滞在の有無、またその期間などについての質問紙調査を行い、滞在3年以上の帰国子女5名および、語彙の学習、関心に対する質問に無回答であった3名を除く18名を対象に語彙得点（30問）とTOEICリスニング得点、リーディング得点との相関性を示した（表5）。

表5 語彙テスト結果

	度数（被験者数）	平均	標準偏差	最少	最大
語彙正答数	18	17.5	3.4	12	24
リスニング	18	305.7	21.1	270	345
リーディング	18	260.1	28.3	220	310

Pearson の相関係数：

〈語彙－リスニング〉：0.119 ( $P < 0.673$ )

〈語彙－リーディング〉：0.420 ( $P < 0.083$ )

〈リスニング－リーディング〉：0.354 ( $P < 0.148$ )

語彙－リスニング－リーディングに有意な相関性は認められない。

### 2. 語彙グループ別分析

18名を対象として、「語彙学習に力を入れて取り組んだ」に回答した8名をグループ1（GV1）とし、「少しは力を入れた」、「あまり力を入れなかった」に回答した10名をグループ2（GV2）として、各グループの語彙得点（問題30問）とTOEICリスニング、リーディング得点との相関性を分析した（表6）。

表6 語彙グループ別分析

	平均	標準偏差	最少	最大
GV1 N = 8				
語彙正答数	18.9	2.3	16	22
リスニング	306.3	17.9	280	330
リーディング	263.1	28.8	230	300
GV2 N = 10				
語彙正答数	16.4	3.8	12	24
リスニング	305.0	24.3	270	345
リーディング	258.5	24.3	220	310

Pearson の相関係数：

GV1 〈語彙－リスニング〉：\*0.822 [ $P < 0.012$ ]

〈語彙－リーディング〉：-0.026 [ $P < 0.952$ ]

〈リスニング－リーディング〉：-0.266 [ $P < 0.525$ ]

GV2 〈語彙－リスニング〉：0.030 [ $P < 0.935$ ]

〈語彙－リーディング〉：0.565 [ $P < 0.088$ ]

〈リスニング－リーディング〉：0.548 [ $P < 0.101$ ]

G V 1 と G V 2 の母平均の差の検定（自由度 16）：

語彙：t 値 1.604 [ $P < 0.128$ ]

リスニング：t 値 0.121 [ $P < 0.902$ ]

リーディング：t 値 0.336 [ $P < 0.741$ ]

G V 1 の語彙とリスニングにのみ高い相関性 (0.822 [ $P < 0.012$ ]) が認められる。また t 検定で G V 1 と G V 2 の語彙、リスニング、リーディングの平均値に有意な差は認められなかった。

## 考察

### (1) TOEIC テスト

学年全体 237 名のスコアの平均値はトータル（総合点）384.5<sup>6)</sup>、リスニング 222.5、リーディング 163.3 で、標準偏差はトータル 111.0、リスニング 63.2、リーディング 57.3 であった。リスニングとリーディングの Pearson 相関係数は 0.639 [ $P < 0.01$ ] で中程度の相関性が認められたが、そのスコアの平均値はリスニングの方が有意に高く（t 値 17.690 [ $P < 0.01$ ])、平均値の差は約 59 点ある。リスニング能力も十分とは言えないが、リーディングの力を上げる必要があろう。

#### 1. 成績順

また、トータルスコア順に G 1（最も高い）～G 4（最も低い）のグループ別の分析では中位グループの G 2（-0.587 [ $P < 0.01$ ])、G 3（-0.539 [ $P < 0.01$ ]) で〈リスニング－リーディング〉に中程度の負の相関性がみられ、G 1、G 4 では相関性が見られなかった。

このことは、中間層ではリスニング、あるいはリーディングのどちらか一方に学習の重点を置いているのではないかと考えられる。このことに関しては、英語学習環境、動機などに関して、被験者全員を対象として追加調査が必要である。

#### 2. リスニング順、リーディング順グループ

リスニングの高得点順にグループ分けした G L 1（リスニングが最も高いグループ）と 3 番目である G L 3 では有意な相関性がみられなかったが中位グループ G L 2 と最下位グループ G L 4（最も低いグループ）ではその値は低い相関性が見られた。

リーディングの高得点順にグループ分けした G R 1（リーディングが最も高いグループ）～G R 4（最も低いグループ）では、G R 3 に低い相関性（\*0.267 [ $P < 0.02$ ]) が見られたのみでこのグループでは有意な相関性がみられなかった。

これはリスニング能力が高ければ、リーディング能力が高い、あるいは反対にリーディング能力が高ければリスニング能力が高いであろうと予測することは困難であることを示している。



## (2) 語彙テスト

語彙テストの被験者グループ18名はTOEICテスト集団の中で上位にあり(平均値 約566点; 237名の全体平均値 約386点)を大きく上回っている。このグループの語彙とリスニング、語彙とリーディング、リスニングとリーディングの相関係数はそれぞれ、0.119 [ $P < 0.673$ ]、0.420 [ $P < 0.083$ ]、0.354 [ $P < 0.148$ ]で、語彙・リスニング・リーディングの間に有意な相関性は認められなかった。

また、このグループ(18名)を対象として行った質問紙調査で「語彙学習に力を入れて取り組んだ」に回答した8名のグループ1 (GV1) それ以外の回答をした10名のグループ2 (GV2) の語彙得点(30問)とTOEICリスニング得点、リーディング得点の平均値に関してt検定を行ったが、これらの平均値についてGV1とGV2の間に有意な相違は見られない、という結果であった。すなわち、語彙学習を意識し、その学習に特別に取り組んだグループと、特別に取り組まなかったグループとの間に語彙力の相違はないという結果であった。

しかし、さらにGV1とGV2の語彙・リスニング・リーディングの相関性について各グループ別に分析した結果、両グループとも語彙とリーディング、リスニングとリーディングの成績に相関関係は見られなかったが、語彙とリスニングについては、語彙を意識して学習に熱心に取り組んでいるGV1にのみかなり高い相関性が認められた(相関係数: 0.822 [ $P < 0.012$ ])。なお、GV2には有意な相関関係は認められなかった。GV1とGV2に語彙の平均値の有意差がないにもかかわらず、GV1にのみリスニングと語彙のかなり高い相関性が見られたが、推測できる1つの理由は語彙テストに使用した語彙問題にあるのではないかと考えられる。トイフルの語彙問題ではかなり難度な語彙も出題されており<sup>7)</sup> この2グループ間では差が見られなかったが、TOEICリスニングで使用される語彙は前者のものより難易度が高くないことが予想される。このことは、GV1のグループの被験者は、より意識して語彙学習に取り組んでいるため、そのレベルの語彙ではGV2の被験者より語彙能力が高いとからであろうと考えられる。しかしながら今回はサンプル数が少ないためこのことに関してもサンプル数を多くして、追検証を行う必要がある。

## おわりに

入学時に行われたTOEICのスコアを分析した結果、総合点の平均値は384.5で、400点を少し切れるものであった。パート別にみると、リーディングの方がリスニングより平均値で約60点も低く、リーディングは495点中166.3点で約30%強くらいしか取れていない。リスニングの力もつけていかなければならないが、リーディング能力を強化していくことは喫緊の課題であろう。

学生の英語リスニング能力と語彙能力との関係については語彙問題の難易度の問題であろうと考えられるが、有意な相関関係は見られなかった。しかしながら、質問紙調査による英語学習環境、海外研修などの学習動機、語彙に対する実際の学習意識と態度などから、語彙学習を意識的に行っている群では、そうでない群と比較して、語彙テストの平均値に有意の差が認められないにもかかわらず、語彙とリスニングの成績に高い相関関係が見られた。このことは適正なレベルの語彙学習はリスニング能力向上の一要因となっていることが考えられ、したがってリスニング指導には適切

な語彙学習指導も必要であると考えられる。

最後に、語彙とリスニングの調査に関して、今回はサンプル数が制限されていたので、より多くのサンプルで追加調査し、再検証する必要があるが、それは次回としたい。本稿が英語リスニング、語彙指導の一助となれば幸甚である。

#### 【註】

1) 文部科学省によれば：

若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るべく、大学教育のグローバル化を目的とした体制整備を推進する事業に対して重点的に財政支援することを目的として、平成24年度より「グローバル人材育成推進事業」を実施するとして、各大学に呼びかけている。

2) 東洋大学国際地域学部では新入学生の英語スクリーニングテストとして前年度までは TOEIC Bridge<sup>®</sup> テストを使用していたが2012年度より IPT TOEIC<sup>®</sup> を使用している。

3) トイフル (toefl<sup>®</sup>) Test of English as a Foreign Language の略で、北米の大学が英語を母語としない外国人学生入学条件の一つとして課している英語能力試験。

4) IBM の統計解析ソフト

5) トイフル試験の PBT (paper based test) で Reading Part に語彙問題 30 問と読解問題 30 問の計 60 問で構成されていたが、現在の PBT では語彙能力は reading で測れるとして読解問題 60 問となっている。

6) 小数点第2位を四捨五入

7) 大学英語教育学会編の「JACET 8000」大学卒業、社会人で英語を必要としている英語学習者の必要とされているレベルの語彙より難解な語彙も出題されている。

#### 【参考資料】

Amato, A. (1988). Making it happen, Interaction in the second language classroom. New York: Longman Publishing Group. (渡辺時夫、ほか訳 (1993) 「英語教育のスタイルインプットからインタラクションへ」 研究社出版)

大学英語教育学会基本語彙改定委員会 (編) (2003). 『大学英語教育学会基本語リスト：JACET list of 8000 basic words』 東京：大学英語教育学会

Ellis, R. (1994). The study of second language acquisition. Oxford: Oxford University Press.

喜田慶文 「日本人学生の英語聞き取り能力とリーディング能力について —その相関性と問題点について—」、東洋大学国際地域学部紀要 観光研究第6号、2007

Ibid. 「英語学習意識と英語能力の相関性に関する調査 —その相関性と問題点について—」、東洋大学国際地域学部紀要 観光研究第7号、2008

Rivers, W.M. (1981). Teaching foreign-language skills. Chicago: The University of Chicago. [天満美智子／田近裕子 (訳) (1987). 『外国語学習のスキル』 東京：研究社出版]

## A study on Japanese Students' English Listening Comprehension Abilities –In Relation to the their Vocabulary Knowledge –

Yoshifumi KITA

The purpose of this study is finding, if any, the correlation between students' ability of English listening comprehension and of vocabulary knowledge. To explore this question, I took the following steps: First, I analyzed the students' scores of the TOEIC test administered as a proficiency test. Second, I administered a vocabulary test to the participant students and asked them to fill in a questionnaire. Third, I analyzed the results of both the vocabulary test and the questionnaire. Lastly the students were divided into two groups by amount of vocabulary study from the questionnaire.

The result showed that a certain significant correlation was found between scores of TOEIC listening and those of reading. As for listening and vocabulary knowledge, no significant correlation was found between them for the group of students who had not studied vocabulary so intensively; however, a strong significant correlation was found for the group of students who had studied intensively, though there is no significant differences in the means of vocabulary scores of the two groups.